

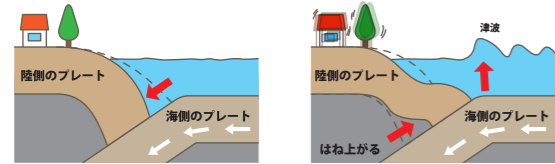
地震が発生する仕組み

地震の種類

日本は、4つのプレートが周囲を取り囲む地震大国です。日本列島周辺は、阪神・淡路大震災(1995年)以降震度7を観測する地震がたびたび発生しており、今後高い確率で発生が予想されている南海トラフ地震(海溝型)と、その活動の前後で起こりうる活断層地震(内陸直下型)への警戒と備えが重要です。

海溝(プレート)型地震

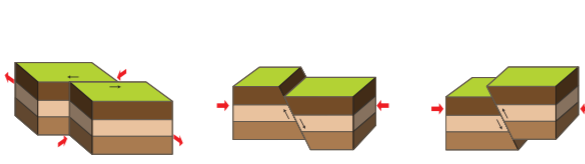
(関東大震災、東日本大震災、南海トラフ地震など)



海側のプレートが陸側のプレートの下に潜り込むことで境界にエネルギーがたまり、限界に達したときにプレートが元に戻ろうとはね上がり、地震が起こります。

内陸直下型地震

(阪神・淡路大震災、熊本地震、能登半島地震など)



地下の岩盤に押し合う力や引っ張り合う力が働くことでエネルギーがたまり、限界に達したときに活断層面に境にずれ動き、地震が起こります。

地震の震度階級

震度は、ある場所がどの程度揺れたのかを表す尺度です。同じ地震であっても、震源からの距離や地盤の揺れやすさなどで揺れの大きさは変わってきます。日本では、0から7の10段階(5、6は強弱の2段階)で震度を定めています。

震度 5弱 大半の人が恐怖を覚え、物につかまらなさと感じる。

耐震性の低い木造建物は、壁などに軽微なひび割れ・亀裂が入ることがある。

固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは、倒れることがある。

亀裂や液状化、落石、がけ崩れが発生することがある。まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。

震度 5強 物につかまらなさと歩くことが難しい。

耐震性の低い鉄筋コンクリート造建物では、壁、梁、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。

棚にある食器類や本で落ちるものが増える。固定していない家具が倒れることがある。

補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度 6弱 立っていることが困難になる。

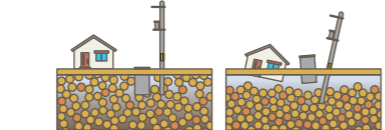
耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。

壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

液状化の発生も考えておきましょう

液状化が発生すると、建物の倒壊や道路の沈下が起こり、通行が難しくなる場合があります。液状化が発生する可能性がある場所をあらかじめ確認しておき、より安全に避難できるルートを考えてみましょう。



震度 6強 はわないと動くことができない。飛ばされることもある。

耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。

固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。

大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山の斜面の崩壊が発生することがある。

震度 7 動くこともできず、飛ばされることもある。

耐震性の低い鉄筋コンクリート造建物では、倒れるものが増える。

広い地域でガス、水道、電気の供給が停止することがある。

大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山の斜面の崩壊が発生することがある。

地震への備え

地震発生時にとるべき行動

地震は、発生時にいる場所や時間の経過とともにとるべき行動が変わってきます。大きな揺れを感じたら、まずは自分の身の安全を第一に守り、揺れがおさまってから行動するようにしましょう。

地震発生!	(初動) 1分	(避難行動) 揺れがおさまったあと	(避難生活) 数時間	数日~
緊急地震速報	まず頭を守る。 	ブレーカーを落とす。ガスの元栓を閉める。 	自宅が安全であれば在宅避難する。 	自宅に戻れない場合は、開設された避難所へ避難する。
	火の始末をする。 	建物の外に出て安全を確保する。 	自宅が安全でない場合や、近くで火災が発生している場合は、非常持出袋をもって安全な避難場所等の広いスペースへ避難する。 	避難所では集団生活のルールを守る。
	ドア・窓を開けて逃げ道を確保する。 	家族の安全を確認後、近隣の安否・出火の有無などを確認する。 	可能であれば親戚・知人宅に分散避難する。 	在宅避難でも備蓄が不足する場合は避難所で物資を受け取る。
			災害用伝言ダイヤルやSNSで無事を知らせる。 	

日ごろからの地震対策

地震はいつ起こるか予測することが難しいため、日ごろの備えがとても大切です。どのようなことに気をつけて対策すべきか、このページを見て確認し、実施しましょう。

